

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成25年5月9日	評価結果市町村受理日	平成25年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570200917-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570200917-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年6月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々の中で利用者さんだけ、職員だけが喜びや悲しみを感じるのではなく、折角の共に過ごせる時間の中でどれだけ喜び、笑い、苦しみ、悲しみ等の思いを共有出来るか、その為には何をどうすべきかを考えながら利用者さんと向き合うよう、職員一人ひとりが心掛けている。居室に個人用の浴室があり、それぞれに合わせた湯温や好みのお風呂剤の使用、入浴時間の融通を利かす事ができ、「一人風呂なんて贅沢！」等、利用者さんより喜びの声が多く聞かれる。献立は職員が立て、調理する事で家庭的な味であったり、利用者さんの好みの味や親しみのある味等、反映させ易く「ご飯がおいしい！」と食事時に笑顔が多く見られる。また、職員も同じテーブルに付き、同じ物を食しながらさりげなく介助や見守りを行う事で、味付け等の確認もしながら、温かい雰囲気での食事が摂れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、同敷地内に協力医療機関を併設しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が受けられる環境にあり、利用者、家族は安心である。職員は、「利用者一人ひとりの生き方を大切にしよう」を常に意識しながらケアに臨んでいる。特に言葉使いでは、利用者の言葉をささげたり、気持ちを抑えつけることが無いように、優しい言葉かけ、自己決定しやすい言葉かけを心がけている。また、レクリエーション時に、利用者の自宅近辺の思い出の場所を聴いたり、描いてもらい、一人ひとりの大切な人や場とのつながりを継続できるように、手作りマップを取り入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作り上げた理念をホールと事業所に掲げ、日々利用者主体のケアを目的とした情報共有を行い、共に楽しみ、悲しみ、喜び合える関係作りに努めている。	管理者、職員は、さまざまなケア場面において、声かけや態度を常に理念を意識しながら、利用者一人ひとりの生き方を大切にする支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り等の行事には積極的に参加しており、近くの美容室や店を定期的に利用する事で、店の方やお客さんとの交流もでき、利用者さんにとって新たな出会いの場にもなっている。	近隣の店で買い物や保育園児との触れ合い、地域の行事への参加、燈とうの奉納、ボランティアの来訪等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けた情報発信は、推進会議での研修報告以外では特に行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて、外部評価の意義や結果を議題としてあげ、サービスの質の向上に努めている。現在、2ヶ月おきの定期的開催予定を立て、実行中。今後、家族さんからの意見を基に議題設定する事も計画中。	運営推進会議では、ホームの活動状況報告や参加メンバーの家族からターミナルケアについての質問が出されるなど、有意義な会となっているが、地域からの参加メンバーが少なく、昨年度の会議の開催は3回に留まっている。	地域の理解と支援を得るためにも、会議メンバーに地域住民の代表者等へ参加の働きかけをしたり、会議を2か月に1回以上開催するような更なる取組を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議等で、市の担当者より意見やアドバイスを受けていたりしている。	市担当者は、運営推進会議メンバーでもあり、ホームの状況を理解しており、日常的に協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「虐待防止法・身体拘束等の排除」に関するマニュアルがあり、身体拘束の定義を正しく理解し、利用者さんが心身共に明るい生活を送れるよう努めている。	管理者および職員は、勉強会を通して身体拘束についての内容と弊害について認識している。利用者の気持ちを抑えつけないように、安全を見守りながら、束縛しない生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義、具体的な行為を学ぶ機会を持ち、日々職場内でそのような行為がないか互いに指摘しあい、見つめ直すように心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H24年度に、権利擁護に関する制度の理解と活用について、ホーム内・外で学ぶ機会が持てなかった。まず、ホーム内での勉強会を開催していく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、相手方の話をしっかり聞くことで、理解、納得した上での契約締結、解約を図っている。改定等は文章等で説明、郵送している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情処理担当者を置いており、研修会への参加もある。また、ホーム内に市町村、県の苦情相談の窓口の電話番号を掲示している。すぐに対応できる物については、職員間で話し合い、迅速な対応、改善に努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者(管理者)が常に職員会議に出席し、会議で出た意見、提案等、改善可能なことは柔軟に対応している。		運営者と職員は、気軽に話し合いができる機会がある。畳で就寝される利用者には、マットレス利用の提案をするなど、職員の気づきやアイデアを運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が心身共に負担を感じる事なく、仕事出来るよう、職員や非常勤職員を十分に配置したり、利用者さんに目が行き届く様配慮している。また、時間通り仕事が終わるよう、働き易い環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合った研修参加の機会を設けている。また、希望する研修がある場合、勤務に支障がない限り受講出来るようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市内のグループホーム定例会があり、意見交換や情報交換する場に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所日よりじっくり話を聞く時間を作り、細かな仕草や表情から心情を読み取りながら、一番適切な接し方を模索し、利用者さん側から気軽に声を掛けられる雰囲気、関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入所後も、対話にて家族さんの要望、意見を聞きだし、利用者さんを共に支援していく上で、互いにより相談相手として支え合っていけるよう、経験からの意見等もしっかりと伝えつつ、気軽に相談できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、利用者さんの身体的、精神的状態や困っている事を把握しながら、本人と家族さんが今、必要としているサービスが行えるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に料理や掃除、身の回りの作業を行い、知恵や昔の地域の様子など、利用者さんの年代だからこそ知り得る事に教えを乞い、職員は恩着せがましさが出ないように、さりげない介護を実践する事で、互いを認め合い、共に過ごす事を喜びと感ぜられる関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、それに対し、意見や要望をその後の介護計画へ活かすと共に、問題浮上時には、職員と共に外出先へ出向いて頂いたり、家族さんより直接話をして頂いたりとの協力を得られている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族さんの協力の下、馴染みの美容室に外出されたり、友人、知人を連れて来られる事もある。年賀状を写真付きで出し、ホームの電話番号を記入、職員から一筆電話を頂けたら・・・と添える事で、70年来の親友と久々の交流が出来た等、個々の事情に合わせた支援を行っている。	家族の協力を得て、行きつけの理・美容院や墓参りを行っている。また、友人の来訪や年賀状を通じて、旧友とのつながりや利用者と一緒に地域マップを手作りし、なじみの場所や思い出を話し合うなど、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性や状態を把握し、うまく関係を築けている時は、必要以上に踏み込まず見守り、介入が必要な場合には、職員を交えながら、本人の苦にならない程度で他者とのコミュニケーションを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに、サービス利用終了後も継続的な関わりを必要としたケースはないが、本人や家族さんからの相談があったり、必要である場合は対応する用意はある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者さんに担当を付け、互いに気付いた事を日々のケース記録から1月毎のモニタリングに落とす事で、状態、要望の変化に迅速に対応できるよう努めている。非言語コミュニケーションにも注目し、日々、気持ちに寄り添いながらの支援を心掛けている。	職員は、日々のかかわりの中で、表情や反応をキャッチしながら、利用者一人ひとりに合った声かけの仕方やタイミング、声のトーン、地域の言葉を使いながら、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族さんに生活歴等の情報を提供していただき、日々の対話の中で、本人からも自身の事を多く語ってもらえるような声掛けの方法を模索し、引き出した情報を全職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月毎に日々の記録を見直し、まとめる事で、個々の現状を把握でき、職員間で意見交換を行う事で、正確な情報の共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族さんからの意見、要望を聞き出した上で、月毎のモニタリングを参考に担当者会議を開き、利用者さんを主体とした現状に即した最適な計画が立てられるよう努めている。	職員は、利用者により細かな気配りができるように、受け持ち制で支援している。毎月1回のモニタリング、3か月ごと毎の計画の見直しを行い、本人や家族の意向を踏まえて、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では、表情や感情の変化等、細部まで記載し、それを月毎にまとめる事で、現状での問題点、改善点を明確にし、会議にて各利用者さんのケア方針について意見交換し、見直しを図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが変化するに伴い、いかに支援していくか、様々な視点から考え、家族さんの意向も取り入れながら協力を得て、本人が本当に必要としているサービスが受けられるように対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り等に積極的に参加したり、誕生会のイベントに地域のボランティアさんに来て頂いたり、出来るだけ多く交流が出来るよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には本人、家族さんと十分に話し合い、希望される医療機関を把握し、受診出来るよう支援している。	ホームの協力医のほか、本人および家族の掛かりつけ医を支援している。受診結果に関する情報の共有ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に医療機関があり、常時連絡を取れる環境にある。利用者さんの健康管理、医療活用の支援等、必要に応じて的確、迅速な対応を受ける事が可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した場合、病院関係者や家族さんから本人の病状、心身の状態、快復の度合い等の情報をもらい、早期退院できるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として終末期ケアは行わない事を原則としているが、本人、家族さんが希望される場合は、医療機関の協力を得ながら対応している。	利用者や家族には、入居時に原則として、終末期ケアは行わないことを説明している。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、状況の変化に応じて随時、意思確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成、勉強会の開催は行っているが、定期的な訓練はできておらず、今後実施していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの訓練や自主避難訓練を行っており、利用者さんにも参加してもらっている。事務所内には非常食、オムツ、カセットコンロを常備している。	マニュアルを作成し、消防署員立会いによる避難訓練や利用者参加による自主訓練を定期的に行っている。避難場所の確保や非常災害用の備蓄もある。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の念を忘れずに声掛けひとつにも配慮している。自室への入退室時にはノックや断りの言葉を述べ、また、ドアが本人の意思に反して開放されっ放しにならないよう配慮している。		職員は、利用者一人ひとりを年長者として敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いや対応をしないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重するように心掛けているが、決断が困難な場合は、本人を主として考え、適度にアドバイスを入れながら自己決定出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人の希望に添えるように心掛けている。団体での活動が苦手な方には、その他の時間で得意なおやつ作り等の個人レクを取り入れたりと、本人の要望を聞きながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室へ行くか選択肢を提示し、本人が希望する場合に予約する等、非日常のおしゃれも出来るように支援している。普段の衣類の選択は、可能な限り本人にしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意欲、体調、能力に応じて、食材切りから注ぎ分け、配膳、自己の箸の準備、下膳、食器拭き等を職員と共にし、利用者さん、職員共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を摂る事が出来ている。		利用者の力量に合わせて、食材の下ごしらえや季節時には梅漬け、郷土料理のがね作りなどを利用者と共にしている。管理者および職員は、利用者と同じテーブルを囲んで、楽しく食事をする雰囲気作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化に応じてご飯量を調節したり、肉、魚、野菜等をバランス良く献立に入れるよう心掛けている。飲酒の習慣がある方への酒の定期的な提供もしている。水分摂取量が少ない方へは、好みの物等を提供してみたりと、増加を目指し工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殺菌作用を目的に、うがいにお茶を使用し、食後の口腔ケアで義歯洗浄剤も使用する。声掛け、誘導し、個々の自立に応じた支援で、口腔内が清潔に保てるようにしている。			

宮崎県都城市 グループホーム小松原（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声掛けに加え、本人の様子を観察しながら、兆候が見られると、さりげなく声を掛けて誘導を行っている。布パンツ使用率が高く、夜間オムツ使用していても日中パットと布パンツ使用する等して、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。		排せつチェック表を利用して、時間を見計らって誘導し、トイレでの排せつを支援している。1号館の各居室にはトイレが設えてあり、排せつの自立支援に向けての配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のレクリエーションにて、体操やゲーム等の運動を取り入れ、職員が立てる献立内に食物繊維の多い食材を取り入れるよう配慮している。日々の排便状況を個々にチェック、記録する事で、便秘が続く場合の主治医への相談も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	居室に個々の浴室が設置してある為、プライバシーの保護が出来ている。曜日、時間帯は決められており、全く好きな時に入るという事は出来ないが、時間内に声掛けをし、希望者から順に入ってもらおう等の融通を利かせて支援している。個々の浴室と言う事で、好みの入浴剤を使用する事もある。		入浴を拒む利用者には無理強いをせず、声のかけ方やタイミングをとらえて入浴してもらえよう支援している。1号館の各居室には浴室が設えてあり、利用者は好みの入浴剤を利用するなど、本人本位の入浴支援の配慮がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は、本人の使い慣れた物等を家族さんに持参して頂き、定期的に洗濯（汚染時は常時）し、清潔な物で休めるように支援している。また、居室の空調管理を行い、体調や気分に応じて、いつでも自室で休息出来るように声掛け、配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、ケース記録に綴じ、変更があれば必ず申し送りに記載し、全職員で確認している。また、変更後症状に変化が見られた時点で主治医に報告、指示を受ける事が出来ている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒習慣のある方には、適量の酒の提供や料理、清掃等、職員と共に談笑しながら作業する機会を多く作るよう努めている。また、編み物等の趣味活動が続けられるよう、道具の確保等の支援もしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら、近隣の散歩へ出掛けたり、少し離れた店へ車にて嗜好品等の買い物へも行く事が出来るよう支援している。		利用者の体調や気分に合わせて、敷地内の草取りや花の手入れ、戸外でのレクリエーション等や外気浴を行っている。近隣の散歩や家族の協力を得て、自宅への日帰り帰省、墓参りなどにも出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所側がしており、買い物は個々の預かり金から職員が支払いをしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月等、本人の希望する場合には年賀状や電話連絡を入れる等の支援をしている。25年1月に出した年賀状より、70年来の友人とのしばらく途絶えていた交流が再開した方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じた壁画や利用者さんの作品、写真を貼り、季節を感じられるように支援している。いつでもホールで談笑する事が出来、居心地の良い空間作りに努めている。	玄関近くの一角や廊下にはいすが置かれ、利用者が歩行の途中にゆっくり腰かけて一息つける配慮がある。利用者が集う食堂兼居間は、採光、室温、音量等が心地良く過ごせるように配慮されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて談笑する事が多いが、玄関先のソファで、気の合った利用者さん同士で語り合ったり、居室を行き来している。1人になりたい場合は、いつでも自室に戻り、静かに過ごせるよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、布団、たんす等、慣れ親しんだ物を家族さんに持参してもらい、出来る限り本人の意思に沿い、職員、家族を交えて相談の上、居心地の良い居室作りに努める。	居室には、好みの歌手のポスターやCD、カセット、家族の写真、化粧品・手鏡等の身だしなみ道具などが持ち込まれている。利用者は、カセットで好きな歌を聴いたりしており、利用者本位の居心地の良さへの工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等、自分のものと認識出来ており、排泄時はホールからでも自室へ行き、用を足す事が出来ている。同時に、「自己にて清掃する。」という意識もあり、実行できている。			